

学校だより

11月号

<http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-chu/>

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から

カリキュラム開発部

児童活動・理解部

【調査結果の見方】○：概ね良好な内容 ▼：課題となった内容 ☆今後の指導や方向性について

学力調査

国語：正答率については、全国平均・神奈川県平均より高い結果になりました。

○「言葉の特徴や使い方に関する事項 知識及び技能」についての正答率が高いです。漢字を文の中で正しく使うことができ、全国と比べてもとても高い正答率です。また、文章の種類とその特徴について理解しています。

▼「条件に合わせて書く」問題は、全国的にも正答率が低く、課題となっています。

▼質問紙で「国語の授業で友達との話し合いや伝え合いから学びを深めることや言葉は相手との好ましい関係を作る働きがあること」について問われる設問では、全国平均より低い結果が出ました。

☆引き続き、言語活動の充実を図るとともに、校内研究を軸に全校で学び合いによる学習の深まりが充実していくように授業の在り方について追究していきます。

算数：正答率については、全国平均・神奈川県平均より高い結果になりました。

○「百分率で表された割合」、「表の意味の理解」「2つのグラフの違いをまとめる設問」の正答率が高いです。数量関係だけでなく、客観的に分析する力がついていると考えます。

▼「一の位が0の二つの2位数の乗法」や、「正三角形の意味や性質についての理解」「高さが等しい三角形について底辺と面積の関係をもとに面積の大きさを判断し、その意味と理由を言葉や数を用いて記述」する問題において課題がありました。

☆今後も、基礎基本の定着を図り、単に答えを求めるだけでなく、「根拠を見つける」「考えや予想を書いて説明する」などの学び合いを深めていく学習を充実させていきます。

学習状況調査

学習及び学校生活・家庭学習・生活習慣

○学習面では、学んだことをまとめたり、自分の考えを相手に伝えるように発表したりすることができる児童が多く、自らが主体的に取り組んでいることが分かりました。

○8割近くの児童が「読書が好き」と回答しています。学校の授業以外に普段から読書をする習慣が身についている児童が多いです。

▼「学級活動や道徳の授業等で、学級での話し合い活動を生かして、努力すべきことを決めて取り組んだり、自分の考えを深めたりすることができる」と回答している児童が7割程度と低い数値が見られました。

☆話し合い活動においては、自分の考えをしっかりと伝えて伝えることができる児童は多いが、他者の違った考えから学びを深めていくことが苦手であることが分かりました。学校では、国語の授業を中心に対話的な学び・深い学びという視点から授業改善を図り、クラスのみならず共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業にしていくため、現在、学校全体で取り組んでいるところです。

社会に対する興味・関心及び規範意識

○「将来の夢や目標を持っている」と多くの児童が回答していることから、将来を見据えて様々なことに進んで取り組むなど、自分の考えを持ちながら学校生活を過ごしているということが分かりました。

▼「人が困っているときは進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことですか」の回答が、全国や昨年度より低い結果が見られました。

☆授業では、クラスの友だちとの協働しながら課題に向かう児童を育成し、人とのかかわりを多く持ち、互いの良さを認め合い、対話的な言語活動を重視していきたいと考えています。また、学校生活においても「望ましい人間関係」を構築するため、お互いの良い所を見つける活動を通して、相手のことを思い・考える場面を作り、人とのかかわりを大切にした指導をしていきたいと思ひます。

